

名大[まちとすまい]の集い 第5回

コンクリートと 豊かなくらし

2003年11月29日(土) 13:00 - 16:30

開催会場 名古屋都市センター大研修室(金山南ビル11F)

プログラム

司会 有賀 隆

13:00 ~ 13:10 趣旨説明 + 講師紹介

13:10 ~ 14:00 片木 篤 コンクリートのデザイン言語

14:00 ~ 14:50 辻本 誠 建築材料と火災

14:50 ~ 15:40 谷川 恭雄 コンクリート構造物の寿命

15:40 ~ 15:50 休憩

15:50 ~ 16:30 質疑応答 + 総合討論

現代の都市にとって特に重要なのは、その場所で活動する人々の多様さを吸収できる潜在力を備えることといえるであろう。名古屋大学の建築学分野は、2001年4月の大学院環境学研究科の設立以降、既存の文系・理系の枠を取り払ったより視野の広い学問分野への発展に向けて積極的な取り組みをしています。

第5回目にあたる今回は、名古屋の都市景観を印象づけている鉄筋コンクリート構造物に関わる諸問題にスポットライトを当て、設計・意匠、防火・環境工学、そしてコンクリート工学の各分野から1名ずつの3名の講師を選び、それぞれの専門領域での取り組みを紹介し、コンクリートと住みやすい都市環境との関係について考えます。

定員 200名(参加費無料)

主催 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻
(財)名古屋都市センター



コンクリートと豊かな暮らし

2003年11月29日(土) 13:00-16:30

名古屋都市センター大研修室(金山南ビル11階)

参加費無料・要申し込み

司会 有賀隆(都市設計計画・まちづくり)

13:10~14:00

コンクリートのデザイン言語

片木篤(建築設計・意匠)

古代ローマ人は、天然コンクリートの使用により直径44mもあるパンテオンのドームを作り上げました。また近代における鉄筋コンクリート技術の発達は、より大きくより自由な建築デザインを可能にしました。ここでは、コンクリート技術とデザインとの関係を、柱・梁といった「線」の構成、壁・床といった「面」の構成の対立としてとらえ直し、コンクリートによるデザインの可能性を追求したいと思います。

14:50~15:40

コンクリート構造物の寿命

谷川恭雄(コンクリート工学)

最近、コンクリート構造物の劣化に関するニュースがマスコミで度々報道され、コンクリートに何が起きているのかという疑問をお持ちの方も多いと思われます。ここでは、コンクリート構造物の寿命に対する考え方、最近の事故例とその原因、調査・診断方法に関する最近の技術動向などを紹介します。

申し込み先

名古屋大学工学部建築学教室 まちとすまいの集い 担当

〒464-8603 名古屋市千種区不老町

TEL:052-789-3746 FAX:052-789-3773

申し込み方法

はがき、FAX、E-mailのいずれかの方法にて、お名前・ご所属、ご住所、電話番号、FAX番号・E-mailアドレス(あれば)をご記入いただき、上記申し込み先までお送りください。

<締め切り> 2003年 11月27日(木)

14:00~14:50

建築材料と火災

辻本誠(建築防火・環境工学)

縄文初期、住居の中に火を持ち込んで以来、人間生活は火災による脅威から脱せずにいる。産業革命からの一時期、建築材料を鉄やコンクリートなど不燃の材料を用いることで、この呪縛から逃れられると錯覚した時代があった。この時期の諸問題と建築分野から車両やトンネルでの火災安全の分野へ拡大しつつある、規制の性能規定化の意味を語る。



財団法人 名古屋都市センター

〒460-0023 名古屋市中区金山町一丁目1番1号

金山南ビル内 TEL:052-678-2216

お車でのお越しの場合は、公共駐車場金山南パーク(有料)をご利用ください。

名大 [まちとすまい]の集い 第5回 申し込み用紙

お名前(ふりがな) :

ご所属 :

ご住所 : 〒

電話・FAX :

E-mail :